

響き合う3世代の調べー第12回荒井町世代間交流コンサート！

令和8年3月5日(木)9:30、春の兆しを感じられる良き日に「第12回世代間交流コンサート」が開催されました。会場を荒井幼稚園から荒井地域交流センターに移しての開催となりましたが、総勢120名を超える方々にお集まりいただき、会場は活気に溢れました。

幕開けは、谷五郎さんの軽快なトークから。毎年異なる切り口で語られるお話で、今年は「孤独と孤立」や「受援力」がテーマ。難しい話題も谷さんの魔法で、笑いとともに心にスーッと入ってきました。トークの最後に、谷さんの生活の中から生まれた曲『生きてます』と『用もないのに起きちゃった』を披露していただき、会場は笑いの渦に巻き込まれました。



谷五郎さん

続く演奏ステージでは、フルート、バイオリン、ビオラ、チェロの4重奏が披露されました。フルートの北野麻里子さん、バイオリンの山田佳代さん、ビオラの小間久子さん、チェロの若松さよりさんの4名の演奏家による多彩なジャンルの7曲が紡ぎ出す音色に、会場全体がうっとりとした酔いしました。



北野麻里子さん



山田佳代さん



小間久子さん



若松さよりさん

休憩後は、荒井こども園の園児たちによる演奏です。『手のひらを太陽に』の曲に合わせて元氣よく踊り、また、プロの演奏家と『高砂物語』をコラボ。一生懸命な子どもたちの姿に、会場は自然と笑顔に包まれました。最後は楽器紹介を交えたインタビューと演奏で締めくくられ、音楽を通じた世代を超えた交流が実現しました。

主催者として、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。まだ寒暖差のある季節ですが、どうぞお体をお大事にお過ごしください。来年もまた、この場所でお会いしましょう。



高砂市の防災対策をご存じですか？！

高砂市の防災対策についての情報をご存じですか？！

高砂市ホームページ→担当課から探す→危機管理室→政策・計画→計画→安心・安全に関する計画と進んでいくと、情報を見ることができます。

①高砂市地域防災計画（（資料編）令和7年修正 高砂市防災会議（263ページ））

②高砂市地域防災計画（（風水害等対策編） 令和7年修正（319ページ））

③高砂市地域防災計画（（地震対策編） 令和7年修正（339ページ））

そのほか、高砂市の防災対策情報は、防災情報・ハザードマップ・新型インフルエンザ対策・防災・防犯と大変莫大な情報量です。見るだけでも大変ですが、その対応を考えるととっても大変です。

私たちは、災害に対してどんな対処を取ればよいのでしょうか。特に、地震はいつ起こるかわかりません。止めることもできません。起こる前に被害を最小限にとどめるにはどんな対策をしておくことが必要なのか、よく家族と相談しておくことが大切です。

【地震発生時の防災心得】

①まず自分の身の安全を守る。②あわてて戸外に飛び出さず、出口を確保する。③避難は徒歩で、持物は最小限にする。④狭い路地、塀のわき、がけ、川べりに近寄らない。⑤山崩れ、がけ崩れ、浸水に注意する。⑥避難時には、ブレーカーを切り、ガスや水道の元栓を締める。

◎避難場所と避難経路の準備はもうお済ですか。しっかりと準備しておきましょう。

各町の取り組みⅡ 「若宮町自主防災会」

令和8年2月8日（日）、若宮町自治会館にて、高砂市総務部危機管理室の出前講座が開催されました。

令和7年度高砂市防災研修会として実施された兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の阪本真由美教授による「みんなで運営する避難所 ～女性・子どもに優しい避難所～」と題しての講演会（令和7年8月3日（日）実施）からのお話でした。

実際の地震による被災地で起きた実例をもとに、「自助、共助の大切さ」「女性・子どもに優しい避難所を運営するにはどうすればよいのか」についての講演でした。

「自助、共助の大切さ」では、地震発生時はその場で身を守り、周囲が安全ならばその場で安全確保。無理に移動しない。避難が必要な場合は、落ち着いて避難。避難場所とその避難経路を確保する。避難が難しい人へは周囲からの支援が必要。地域の助け合いが大きな力となり、地域の力が命を救うことにつながる。また、避難所運営には地域の力が不可欠で、特に、トイレ対策は必須とのことでした。

地震発生後に起きる問題は、急に沸いて出てきたわけではなく、元々存在していて、見えていなかった事が明らかになっただけである。従って、災害前の平常時に対策を練っておく必要があるとの結論でした。



発行責任者 荒井地区支え合いづくり協議会 会長 福本隆文

事務局 社会福祉法人 高砂市社会福祉協議会地域福祉課 第2層生活支援コーディネーター（小西）

TEL 079-443-3725 FAX 079-443-0505